



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成24年8月

うるわし通信

いま問われる木材の役割 例えば脱原発への寄与は？

福島原子力発電所の事故は世界を駆けめぐり、世界中を不安に陥れました。ドイツは早々に7基の原発の延長凍結を決定しました。フランスは原発推進派ですが、事故から6日目には政府が非難用特別チャーター機で自国民を日本から脱出させました。

思えばわたしたちは原子力平和利用のキャッチフレーズと、原発利用の科学技術を愚かにも信じきって来たのです。

そもそも原子力の平和利用という看板が偽物でした。核は人間に最も有害なものです。元来、最も効果的な殺人兵器として、この世に生み出されたものなのです。

それでも、わたしたちは、冷静で客観的な科学的な声というものを信じていました。ところが現実には原子力行政の圧力のままに科学者たちが動いていたことが、いま明らかになりました。

勿論、冷静で客観的な考えの科学者も居られますが。不遇な地位に追いやられ、その声は圧殺されました。

平和とは、まず第一に日常生活の安全を保障するものでなければなりません。

いま、わたしたちはこの基本的問題に目ざめています。拡大する脱原発デモは市民の偽らざる声です。原発に代わる自然エネルギーの開発が急務です。バイオマス・風力・小型水力・太陽光・地熱など

の実用化に着手すべきです。

この中で材木のまちと知られるわたしたちのまち桜井で果たすべきことはないのでしょうか？

材木は勿論、優秀な建築資材ですが、ほかにも役割があるのではないかと？例えばバイオマスで他都市をリードできるノウハウがあるのではなからうか？

これを今月のテーマとします。



バイオマス集積基地 (真庭観光連盟提供)

バイオマスタウン真庭の見学ツアーに参加して

うるわしの桜井をつくる会事務局長 高瀬安男

バイオマスツアー真庭

見学ツアーには、新しい桜井の街づくりを目指す各種団体から20名が参加した。ツアーは真庭観光連盟・産業観光の若い女性スタッフの案内で、2日間にわたり「町並み保存地区」「バイオマス発電プラント・ペレットの製造現場」「真庭市役所の冷暖房チップボイラー」「木材チップを混入した木質コンクリート製品」「ペレットを燃料としたボイラーによる温水プール」「ペレットを使用した農業用ハウスの暖房」等多くの場所や施設を見学した。

このように「バイオマスで街おこし」をテーマに街全体が一つの目標に向かって取り組み、観光客にも気軽に話しかけあたたかく迎えてくれる姿に接し感動した。



グラウンドには銭が落ちている

バイオマス一色の真庭市だが、ある地域の異色の取り組みに目を見張るものがあった。旧久世町(合併前の町名)にある「旧遷喬小学校」を拠点とした町づくりだ。担当者から、真庭市の住民は昔から進取の気性に富み、古いものを取り壊し、新しい文化の導入を進めるという気風にあふれた街だという説明を受けた。

このような住民性もあり、大きく注目される文化財も存在しなかったようだ。そこで、平成2年に最後の卒業生を送り出し、廃校となっていた旧遷喬小学校に注目した。校舎は築105年、木造2階建のルネッサンス風小学校として、多くの専門家からは高く評価されていた。この建物を観光客の誘致に生かせないかと、地元の人たちと行政が集まり、お互いに知恵を出し合い、国指定の重要文化財に申請し、平成11年5月に重要文化財の指定を受けた。

今では、地元の若い人たちがこの校舎を拠点に様々な取り組みを行っている。今回参加したバイオマスツアーでは、文化財となった校舎の見学だけでなく、地元の方々のアイデアで、学校給食の体験も組み合わせた。見学会場には当時の子供たちが着用したセーラー服や詰襟の学生服も用意され、参加者はコスプレを楽しみながら学校給食の思い出に花を咲かせる。給食は地元の食堂経営者やボランティアの方々が協力して提供している。まさにグッドアイデアだと思った。給食体験のない私たちの世代には、マナーも含め新しい発見もあり美味しくいただいた。

「バイオマスで街おこし」の中では異色の取り組みだが、たった一つの廃校となった小学校に注目し、観光スポットに生き返らせた地元の人々の情熱に敬意を表したい。街おこしのヒントは日ごろ見慣れた風景の中にも、ころがっていて、ちょっと目を見開くことで大きな成果が得られる好例ではないかと思った。

かつてのプロ野球南海ホークスの名監督・鶴岡一人氏は「グラウンドには銭が落ちている」という名台詞をはいた、私たちも今一度大きな目を見開いて、街おこしの再発見に努めるべきだと考える。



当日のメニュー

* バイオマス

バイオ(bio)は生物、マス(mass)はかたまり、集合体という意味である。生物体をエネルギー源、または工業原料として利用すること。真庭市では伐採後の木材の破片や廃材等を利用した、木質系のバイオマスを中心に利用活動を展開している。

桜井での取り組みは？

市内の吉田敦彦さんにバイオマスについて、意見をお聴きしました。

(インタビュー 浅川肇)

- 浅川 吉田さんはバイオマスを研究されているそうですが、具体的なお話しをお願いします。
- 吉田 わたしは製材業なのですが、製材の過程で樹皮・廃材が出ます。樹皮・廃材はそのままでは単なるゴミ、産業廃棄物ですが、これを燃焼して発熱エネルギーに再利用しようということです。
- 浅川 成功例を教えてください。
- 吉田 岡山県では発電に成功しています。冬期のビニール栽培の温暖用としては各地で既に行なわれています。
- 浅川 バイオマスが生み出す電気量は、どのくらいなのでしょう？
- 吉田 右下の写真のプラントを見学しましたが、そこでは一日130トンのかんなくずを処理する能力があり、一時間1950kWの発電能力を持っています。これは3000世帯の電力を賄うことができるのです。
- 浅川 桜井は伝統的に製材材木関係者が多いので理解も早く、県内でも設置は有望ではないでしょうか
- 吉田 問題は一業者の排出する樹皮・廃材では量的に不足するのです。どうしても地域で纏めて発熱体の樹皮・廃材を確保し、安定した供給を行うことが絶対条件になります。それには業界がまとまる必要があります。さらに発熱工場を造るには大きな設備投資・資金を要しますが、これには自治体の支援態勢が不可欠です。これに加えて安定した需要者も必要です。こうして地域が環境にやさしいエネルギーを生み出そうという目的で一体となって取り組むことが課題だと思うのです。
- 浅川 桜井では実現にはまだ遠い道のりのような気もしますが、吉田さんがバイオマスに寄せる情熱は何処から生れるのでしょうか。
- 吉田 わたしはバイオマスだけでなく、木材による桜井おこしをしたいのです。桜井は材木のまちだというイメージを行政もしっかり掲げて欲しいのです。駅舎も観光整備にも木を使って欲しい。しかも、木は製材の後の廃棄物である樹皮・廃材でさえ、捨てることなく、わたしたちの生活を支えることができるという材木業者の誇りを、いまこそ高らかにアピールしたい。材木は再利用することで、立派に社会に還元している。そういう姿を実現して世の中に示したいのです。
- * 吉田さんの志はなんとか叶えてあげたいものです。若い情熱にいささかの羨望を感じつつ別れました。



バイオマス利用の温水プール
(真庭観光連盟提供)



バイオマスプラント(銘建工業)
(真庭観光連盟提供)

続報 Joshin電機情報

さる7月10日、ジョウシン電機大阪本社にて、金谷副社長：遠山部長：田中課長代理と堀井会長以下3名が交渉しました。結果は、本会の主張を大幅に取り入れていただきました。

金谷副社長は「桜井市の景観行政に協力し、外観は、もっとも景観について厳しい京都なみにします。地元の皆さまに愛される店舗にしていきたい」と述べられました。

事務局だより

- 8月の常任理事会はお休みとさせていただきます。
- 9月の常任理事会は9月15日（土）午後1時30分よりエルト桜井第6研修室にて開きます。

特命オンブズマン

いじめと教師と市教委

大津市中学校のいじめの実態は、暴力性と陰湿な犯罪性において、背に冷水の戦慄を覚えた。そのとき一瞬、桜井は大丈夫かと一抹の不安が頭をよぎった。風紀問題などで、よからぬ風聞を耳にしていたからである。危惧は的中し、市内中学校長の謝罪のテレビ放映が流れた。遺憾である。

そもそもいじめとは、教育現場の荒廃の一語に尽きる。教師と生徒間の信頼、生徒同志の友情の崩壊という非教育環境に起因する。

在職中も退職後も世人から先生と呼ばれ、同僚間でも先生と呼び合う他の職にはない特権（聖職性）の責任は、学校と社会に重い。その故に不都合なボロは隠す隠蔽体質、ほのかな優越感は世俗に超然としてかわりを避ける。退職

後も市民運動にリーダーシップを発揮する人は少ない。しかし先生と呼ばれる。

市教委の教育長は歴代学校長から任命される慣習がある。これは市教委の学校に対するなれ合いのもとであり、学校への指導・管理を誤る同じ穴のムジナ人事である。この制度疲労の悪慣習はぶっこわすべきである。

中国古代（唐：代宗皇帝の時代）の思想家韓愈（かんゆ）は、師とは何ぞやの問に応えた。

「師ハ道ヲ伝エ、業ヲ授ケ、惑イヲ解ク」と。道とは人倫と導徳であり、業とは学問・知識の学業である。惑いを解くとは、人生に降りかかる難問に不惑の悟りを示すことである。

いじめを無くすために、改めて「教師と市教委とは何ぞや」を問うてみたい。 -芝 房治-

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000

編集後記 桜井市での有志による「脱原発署名」運動は僅か一ヶ月間で8363名の署名を得ました。この事実は重く受けとめるべきです。電気は必要だ。電気は超大型会社をお願いします。という大企業依存論でなく、地産地消型で各地で中小規模の電力を作ろう。というのは発想の一大転換です。当然、送電権も持つべきです。

これからの日本は変わるだろう。わたしは、良い方に向かうだろうと感じています。 (あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345